

# 1. インターネット調査からみる終活と葬儀

## ——性別・年代とのクロス集計——

玉川 貴子

### 目次

1. 調査の概要
2. 性別、年代別の「終活」認知度
3. 性別、年代と自分の希望する葬儀
4. 性別、年代と葬儀費用
5. まとめ

### 1. 調査の概要

筆者は、名古屋学院大学経済学部の上山仁恵とともに、終活に関するインターネット調査を行った<sup>1</sup>。本報告では、この調査データを用いて、終活の認知度、自分自身の希望する葬儀や葬儀費用について、6つの仮説をたて、検証していく。

調査対象者は、50歳以上の男女1,016人で、男性が49.7%、女性が50.3%である。平均年齢は65.8歳で、年代別では、50代が28.9%、60代は32.8%、70代は26.0%、80代以上が12.3%である。回答者の県別順位をみると、東京都、大阪府、神奈川県、愛知県と大都市圏が多い。調査の特性上、ネット環境が整備されている対象者に限られるため、居住地域に偏りが見られる。したがって、現状を反映した調査とは言い難い。ただ、ネットから情報を得やすい人々が、終活や葬儀について、どう考えているかを知る上では、参考になるだろう。

なお、本調査において「終活」は、「人生の終末を迎えるにあたり、介護や延命治療、葬儀、お墓、相続などについての希望をまとめ、準備を整えること」と定義した。このような定義にしたのは、終活の範囲が広く、決定事項の程度に幅があるためである。

また、終活の定義に「日用品を整理する、捨てる」といった行為を含める場合もあるだろう。しかし、それらの行為は、日常生活における暮らしやすさに起因している場合もあり、終末の意義を捉えそこなうことが考えられる。つまり、死を迎えるための準備なのか、日常の生活しやすさの延長上における準備なのか、また両方なのかが不明瞭になりやすいため、それらの行為については、明記しなかった。以下、本稿で検証する仮説を書いておく。

仮説①性別と終活の認知度が、関連している（していない）

---

<sup>1</sup> 調査の詳細については、玉川貴子・上山仁恵 2019「終活の金融リテラシー」(No. 128)を参照のこと。なお、本稿で扱った①から⑥までの仮説とその検証過程で行ったクロス集計結果は、「終活の金融リテラシー」には、掲載していない。

仮説②年代と終活の認知度が、関連している（していない）

仮説③性別と自分の希望する葬儀形式が、関連している（していない）

仮説④年代と自分の希望する葬儀形式が、関連している（していない）

仮説⑤性別と自分の葬儀で希望する葬儀費用は、関連している（していない）

仮説⑥年代と自分の葬儀で希望する葬儀費用は、関連している（していない）

仮説①と②は、「2. 性別、年代別の『終活』認知度」で検証し、③と④は「3. 性別、年代と自分の希望する葬儀」で検証する。「4. 性別、年代と葬儀費用」では、⑤と⑥の仮説を検証する。

## 2. 性別、年代別の「終活」認知度

仮説検証の前に、終活の認知度はどのくらいか単純集計の結果を報告しておく。終活という言葉は「よく知っている」と回答したのは 43.6%、「名前は聞いたことがある」は 50.8%、「知らない」が 5.6%であった。ほとんどの人が「終活」という言葉にふれていたことになる。

①の仮説で、性別と終活認知度の関連性を見るために、カイ二乗検定を行ったところ、有意であった（ $\chi^2=16.568$ 、 $df=2$ 、 $p<.001$ ）。さらに、「よく知っている」と答えたのは、男性よりも女性が多かった。女性の方が終活への認知度は高く、男性側の「聞いたことがある」の回答は、配偶者など身近な女性から聞いた可能性もある。

②の仮説を検証するため、年代と終活認知度でクロス集計した。カイ二乗検定の結果、 $\chi^2=38.575$ 、 $df=6$ 、 $p<.001$ で、残差分析では、50代と70代で差が見られたと解釈できる。50代は、「聞いたことがある」が多く、70代は「よく知っている」が多い。通常、この手の調査は、65歳以上の高齢者を対象として区切られるが、終活をよく知っている年代は、実際のところ70代ということになる。60代に比べて70代は、体力的な衰えを感じる年代であり、現実的に考えるのだろう。

しかし、言葉は知っていても、終活の相談を実際にしているかはわからない。終活について誰かと相談したことがあるかを複数回答可で尋ねてみたところ、もっとも多かったのは、「誰とも相談していない」の 68.0%で、7割近くの人が終活について相談していなかった。次いで、「配偶者と相談している」が 25.2%、「子どもと相談している」が 8.6%、「友人と相談している」が 2.2%であった。他にも、「行政機関と相談」や「行政以外の機関（団体、会社、NPO等）への相談」もあったが、それぞれ 0%、0.2%の低い数値であり、相談する場合は、身近な人を選んでいることがわかる。

また、回答者本人が、自分の葬儀について準備をしているかを尋ねた項目で、もっとも多かったのは、葬儀の準備を「まだ何もしていない」で、62.5%であった。次いで、「葬儀資金を準備している」の 16.1%であった。「葬儀社と事前契約している」と「冠婚葬祭互助会に加入している」は合わせて 14.1%、「葬儀はしないと決めている」が 10.4%であった。終活という言葉を知っていても、実際、葬儀の準備をしている人が多いとはいえない。

表1 性別による終活認知度

性別と「終活」認知度のクロス表						
		「終活」認知度			合計	
		よく知っている	聞いたことあり	知らない		
性別	男性	度数	189	281	35	505
		調整済み残差	-3.9	3.1	1.8	
	女性	度数	254	235	22	511
		調整済み残差	3.9	-3.1	-1.8	
合計		度数	443	516	57	1016
		総和の%	43.6%	50.8%	5.6%	100.0%

$\chi^2=16.568$   $df=2$   $p<.001$

### 3. 性別、年代と自分の希望する葬儀

③と④の仮説を検証する。③の仮説について、性別と自分自身の葬儀で希望する形式の関連性を見るために、カイ二乗検定を行ったところ、有意であった ( $\chi^2=33.513$ 、 $df=6$ 、 $p<.001$ )。この結果と残差を見ると、「家族葬」や「直葬」は、女性の方が多く希望していると解釈できる。一方、男性は、自分自身の葬儀であっても、「家族の判断」が多く、女性に比べて家族に任せたいと思っているようだ。

④の仮説の年代と自分自身の葬儀で希望する形式との関連性だが、こちらも有意であった ( $\chi^2=60.661$ 、 $df=18$ 、 $p<.001$ )。残差分析では、70代に「家族葬」希望者が多かった。

ところで、「2. 性別、年代別の『終活』認知度」で自分の葬儀について準備をしているかを尋ねた項目で、「葬儀はしないと決めている」と回答した人の性別をクロス集計し、カイ二乗検定を行ったところ、有意であった ( $\chi^2=10.368$ 、 $df=1$ 、 $p<.001$ )。残差分析の結果、「葬儀をしないと決めている」のは、女性に多いことがわかった。つまり、男性の方が「葬儀はする」と考えている。

この結果について、女性のほうが社会的に葬儀を執り行うべきという規範にとらわれにくいこと、また葬儀を多額の出費と捉え、それを抑えるため「葬儀はしないと決めている」ことなどが考えられる。

表2 性別と自分自身の葬儀で希望する形式

性別と自身の葬儀のクロス表										
			自身の葬儀						合計	
			一般葬	家族葬	生前葬	直葬	その他	家族の判断		不明
性別	男性	度数	14	206	2	72	4	118	89	505
		性別の%	2.8%	40.8%	.4%	14.3%	.8%	23.4%	17.6%	100.0%
		自身の葬儀の%	42.4%	45.0%	40.0%	39.8%	57.1%	62.1%	62.7%	49.7%
		総和の%	1.4%	20.3%	.2%	7.1%	.4%	11.6%	8.8%	49.7%
		調整済み残差	-.9	-2.7	-.4	-2.9	.4	3.8	3.3	
	女性	度数	19	252	3	109	3	72	53	511
		性別の%	3.7%	49.3%	.6%	21.3%	.6%	14.1%	10.4%	100.0%
		自身の葬儀の%	57.6%	55.0%	60.0%	60.2%	42.9%	37.9%	37.3%	50.3%
		総和の%	1.9%	24.8%	.3%	10.7%	.3%	7.1%	5.2%	50.3%
		調整済み残差	.9	2.7	.4	2.9	-.4	-3.8	-3.3	
合計	度数	33	458	5	181	7	190	142	1016	
	性別の%	3.2%	45.1%	.5%	17.8%	.7%	18.7%	14.0%	100.0%	
	自身の葬儀の%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
	総和の%	3.2%	45.1%	.5%	17.8%	.7%	18.7%	14.0%	100.0%	

$\chi^2=33.513$   $df=6$   $p<.001$

#### 4. 性別、年代と葬儀費用

仮説を検証する前に「自分自身の葬儀で希望する費用」の単純集計について報告しておく、「50万円未満」が30.7%、「約50万～100万円未満」が24.3%、「約100万～150万円未満」が10.1%となった<sup>2</sup>。

⑤の仮説を検証するために、性別と葬儀費用のクロス集計を行った。カイ二乗検定の結果は、 $\chi^2=22.750$ 、 $df=7$ 、 $p<.001$ であった。残差分析も行ったところ、女性の方が「50万円未満」を多く希望していた。女性に比べて男性の方が高額な葬儀を希望するといえよう。

⑥の仮説で、年代と希望する葬儀費用の関連性でも、有意であった( $\chi^2=86.856$ 、 $df=21$ 、 $p<.001$ )。この結果と残差を見ると、50代は他の年代と比べて、「50万円未満」が多く、70代は、「約50～100万円」が多い。ただし、80代以上は、違う。他の年代に比べ、やや高額の葬儀を希望しているのである。そもそも80代以上の回答数が少ないため、解釈しにくいところもあるが、この年代は葬儀を出した側としての経験もあり、高額になることがわかっているためではないかと考えられる。年代が若いと実際にかかる葬儀費用についてはあまり知らないため、自分の希望する(理想とする)葬儀費用とのギャップが大きくなりやすいのではないだろうか。

最後に、「平成30年特定サービス産業実態調査」の費用規模別年間葬儀取扱件数をみておこう。もっとも多かったのは、「100万円以上200万円未満」で、387,175件であった。次いで、「50万円以上100万円未満」の370,239件、「50万円未満」の261,863件であった(表4)。我々の調査で回答者の多くが希望していた金額よりも、実際の葬

<sup>2</sup> ただし、「不明」(「わからない」と回答した者)が25.3%であった。

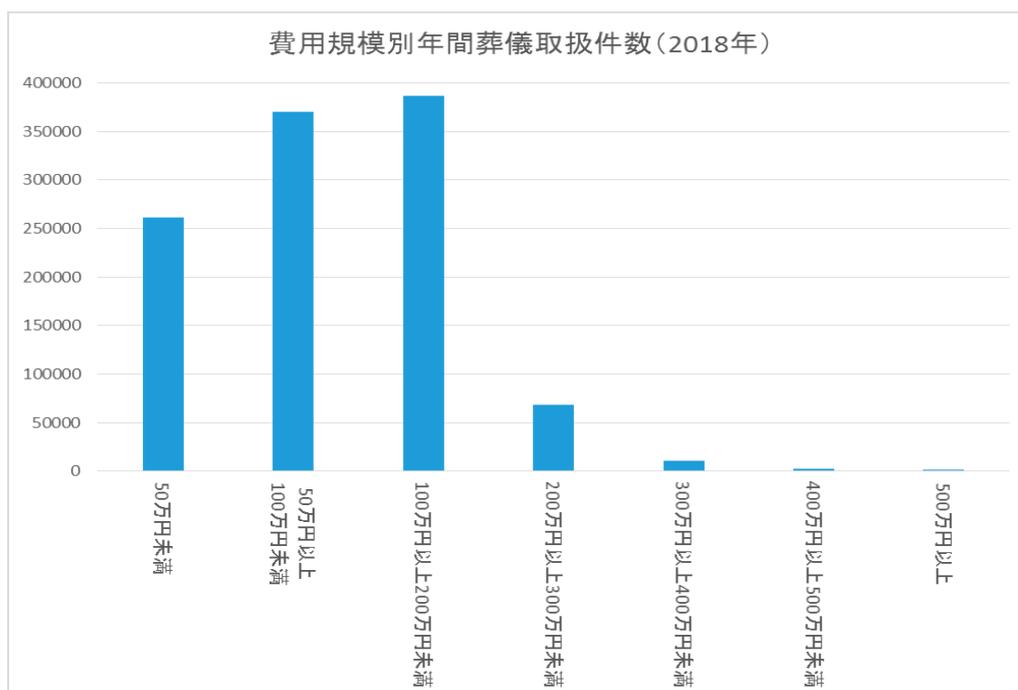
儀は、やや高額であった。

表3 年代別にみた自身の葬儀費用の希望

		年代4分類 と 自身の葬儀費用 のクロス表								合計	
		自身の葬儀費用									
		50万未満	約50~100万	約100~150万	約150~200万	約200~250万	約250~300万	300万以上	不明		
年代4分類	50代	度数	119	59	18	12	3	2	0	81	294
		調整済み残差	4.3	-2.0	-2.7	-1.5	-1.0	-1.6	-1.3	1.1	
	60代	度数	110	72	33	15	4	4	1	94	333
		調整済み残差	1.1	-1.4	-2	-1.2	-8	-8	-3	1.5	
	70代	度数	65	84	35	17	3	4	2	54	264
		調整済み残差	-2.5	3.3	2.0	.5	-8	-2	1.1	-2.1	
	80代以上	度数	18	32	17	15	7	7	1	28	125
		調整済み残差	-4.2	.4	1.4	3.2	3.7	3.7	.8	-8	
合計		度数	312	247	103	59	17	17	4	257	1016
		総和の%	30.7%	24.3%	10.1%	5.8%	1.7%	1.7%	.4%	25.3%	100.0%

$\chi^2=86.856$   $df=21$   $p<.001$

表4 費用規模別年間葬儀取扱件数



出所：経済産業省「平成30年特定サービス産業実態調査」（2018年調査）より筆者作成

## 5. まとめ

終活という言葉を知ったことがある人は男女ともに多かった。特に女性の方が認知度は高い。認知度の高さが、実際の終活行動に結びついているとは言い難いものの、

「葬儀をしないと決めている」人も女性に多かった。したがって、男性に比べ女性の方が安い葬儀費用を希望していた。

さらに、自分自身の葬儀についても、男性よりも女性の方が「家族葬」や「直葬」を選ぶことがわかった。男性は、自分自身の葬儀であっても、女性に比べて「家族の判断」に任せることを選ぶ。また、70代が「家族葬」を自分の葬儀として多く希望していた。自分自身の葬儀費用については、葬儀経験があまりないと思われる50代が、もっとも安い金額を希望し、葬儀経験があると思われる80代は、やや高い金額を希望していた。

今回、終活の認知度、自分自身の葬儀についての希望や費用について、性別、年代別で特徴的な点を挙げることでできたと考えられる。今後は、性別、年代別での違いとともにそれ以外の要因を視野に入れて、葬儀執行規範の変化を考えていくことが、筆者の課題である。

#### 【引用参考文献、データ】

・経済産業省「平成30年特定サービス産業実態調査」

<https://www.meti.go.jp/statistics/tyo/tokusabizi/result-2/h30.html> 2020年3月30日

・玉川貴子・上山仁恵 2019「終活の金融リテラシー」名古屋学院大学総合研究所ディスカッションペーパー No.128